

# WURC NEWS 特別号Vol.2

編集:河内 章(主務)

## 副将の役割

「部内の風通しを良くし、チームバランスの良い組織」をつくるべく、現体制では副将が2名置かれている。インターハイ・国体(ともに1×)の優勝経験を持つ清水大輔と高校時代から学院生として早稲田を背負ってきた木目田健二の両名である。個性派揃いの早稲田をまとめるため、副将として「チームを包括的にみること(清水)」「誠心誠意練習に打ち込み、その姿勢で部員をひっぱること(木目田)」を心掛ける二人。究極のチームスポーツと称される『ボート』で勝負の決め手となる組織力をどのようにして強固にしていくのか。そもそも個性派が揃うと言われる「早稲田」という環境はいかなるものなのか。



## 「早稲田」という環境

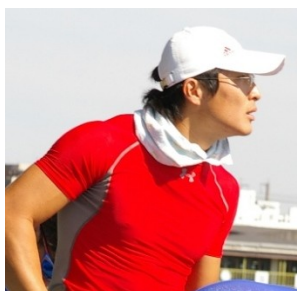
日々の暮らしの中で生活環境というものは人格形成に大きな影響を与える。「早稲田」という環境について清水は「様々な経歴を持った仲間が揃っていることが特徴。例えば部員の入学方法一つをとっても推薦・一般入試・附属校上りがいて、その中でも日本代表経験者がいたりボート未経験者がいたり様々。そんな色々なカラーを持った人間が優勝という一つのでっかい目標のもと、集まることが早稲田の大きな魅力の一つといえるのではないか。」と語る。「そんな個性豊かなメンバーの個々の特色を活かし、総合力を向上させるために何が出来るか日々考え、実践することが私たちには求められる。」と木目田。そこで現体制で力を注ぐのが基本理念『人間力』の育成である。



## 理念

「選手として【競技力】を向上させるのは当たり前ですが、練習の中でInputしたボートのノウハウについてしっかりとOutputが出来るようになれば、後輩の育成に加え、自身の競技力に更なる好影響を与えられると考えている。【指導力】が育てば今後ボート界に貢献出来る可能性が広がると思いますし。」(木目田)。「学生ですが社会の中で生きている者として、より洗練された振る舞いが求められるのは当然なので、早稲田生として自覚ある行動【社会性】を磨かなければいけないと日々感じている。背伸びをする必要はないが、私生活面でも最上級生としてお手本にならないと。【競技力・指導力・社会性】総じて『人間力』の成長が確立できた時、早稲田カラーがより輝きを発すると思います。」(清水)

早稲田を「勝つ組織」にするため。——まだまだ二人の挑戦は終わらない。



木目田 健二 (きめだ けんじ)

法学部3年

主な戦歴

- ・全国選抜大会 06'【4×+】4位
- ・全日本大学選手権 07'【4-】3位
- ・全日本新人選手権 07'【8+】優勝
- ・全日本大学選手権 09'【8+】3位



清水 大輔 (しみず だいすけ)

スポーツ科学部3年

主な戦歴

- ・全国選抜大会 06'【1×】優勝
- ・全日本大学選手権 07'【2-】優勝
- ・全日本新人選手権 07'【8+】優勝
- ・全日本大学選手権 09'【8+】3位